



# 横浜陶芸友の会だより

第 172 号  
平成 30 年  
11 月 1 日発行

横浜陶芸友の会 第 40 回「作品展」開催へ

横浜陶芸友の会 会長 高橋 光男



お蔭様で横浜陶芸友の会「作品展」も 40 回目を迎えることになりました。

これも偏に会員各位の御協力と努力の賜物ではと大変嬉しく、また感謝しております。

毎年さまざまな技法を使った見応えのある作品が展示され、翌年の作品制作への刺激となりパワーとなっているのではないかと思います。

土は自然から生まれ、自然は土へと帰る.....

人の手が土を美しい器に変えてゆく『第 40 回 作品展をより良いものにしませう!!』

## 役員会の報告

総務部より

10 月 13 日 (土) 15 時 30 分より

会長・副会長・各役員 9 名で話し合いました。

○事業部 第 40 回「作品展」について

会場・日程 決定

○専修部 秋期研修会の報告

○広報部 「7 月友の会たより」発行

「11 月友の会たより」発行予定

○総務部 11 月友の会たより

「作品展の案内」発行予定

○会計部 次回 (2019 年 2 月) 役員会にて

各部 中間報告提出

◎ 今年暑さが厳しい夏でしたが、季節は巡り作品展まであと二カ月となりました。

40 回目を迎える記念の年。皆様の想いのもつた作品を拝見出来る事を楽しみにしております。

## 《次回役員会 予定》

日時：平成 31 年 2 月 23 日 (土) 15 時 30 分

場所：杉田地区センター 集会室 A

## 『第 40 回 作品展』のお知らせ

『作品展』の会場は、東神奈川駅に隣接する「かなつくホール」です。

申し込み方法と作品展の詳細については、会報の 11 月号と一緒に会員の皆様に送付いたしました。

※今年度も、高橋会長の肝いりで

「作品の制作等についての発表会」を

日曜日 15 時から予定しております。

色々な作陶談議で盛り上がりましょう。

お楽しみに。

【会期】平成 31 年 1 月 8 日 (火) ～ 13 日 (日)

【会場】かなつくホール A 室

(JR 東神奈川駅 下車 3 分)

【特設コーナー】「飯茶碗」

【申し込み締切り】平成 30 年 12 月 27 日 (木)

【懇親会】1 月 12 日 (土) 17 時半から

・横浜駅西口徒歩 3 分「魚寅本店」

・「会費」7 千円

※今年度は横浜駅に出かけます。

※搬入日の集合時間・場所

・ 9 時半に「会場入り口」です。

いつものように「整理券」を到着順にお渡しいたします。

※出展される方は期間中会場当番(半日程度)のお手伝いをお願いいたします。

訃報

横浜陶芸友の会で  
役員として長年  
ご指導ご協力いただ  
きました元専修部  
の 渡邊サトル様 が平成 30 年 8 月に  
ご逝去されました。

「ご生前のご厚情を思えば常世の国への  
旅たちに、お見送りをしなければいけま  
せんのに何えず申し訳ございません。  
故人のご冥福を祈って手を合わせて  
おります。」

高橋 光男

訃報

横浜陶芸友の会の事業部で、何時も  
ダイナミックな作品を作ってこられた  
中野正好様 が平成 30 年 9 月に  
ご逝去されました。  
ここに謹んでご冥福をお祈りすると  
ともにお知らせ申し上げます

「中野正好さんを惜しんで」

2017 年 1 月 作品展



「コスモストーン」(日展入選作品)  
「静かなる卵」  
「崩壊するストーン」

真似のできない着想と独自の釉薬の作品で  
日展・全陶展・日本現代工芸美術展などの  
公募展でこの三年間受賞や入選をされていた  
中野さんが急逝されるとは、ただただ驚くば  
かりです。

初めて事業部と一緒に飲んだ時、劇団四季  
の有名な「キヤッツ」のメイクを担当してい  
たと聞き「凄い人が友の会に入ってくれた」  
と喜んだものです。

奥様からのお手紙によると、肺癌のため入  
院予定の 10 日前に急変し、緊急入院してわず  
か 3 日で永眠された。とのことでした。

本当に残念な事ですが、「直前まで普通に生  
活できたのは幸いなことだと思っている」と  
奥様もおっしゃっています。  
ご冥福をお祈りいたします。

鍋島 弘義

メイクアップアーティストとしては有名な方  
だったらしいので、ストレスも多かったのだ  
でしょうか。

一緒に飲んだ時にお酌をしてくれたりして  
やさしい方でしたね。残念です。

鈴木 貴久

秋の焼成会(研修会) 報告

専修部

今年は 9 月 16 日(日)に技能文化会館にお  
いて、飛びカンナ技法の習得を目指して研修  
会を実施しました。

参加者はちょっと寂しい 7 人(23 作品)で  
したが、ロクロ 3 台を駆使して思い思いの模  
様(?)を刻みました。

とは言うものの、白化粧泥を塗り程よく  
乾いたところでカンナ当てますが、土が乾き  
すぎてカンナが弾かれ、逆に柔らかすぎてカ  
ンナが弾けず上滑りするなど結構苦戦を強い  
られました。



化粧掛け





貝森俊司さん

「一輪挿し」「中鉢」2枚  
「小鉢」「ピアカップ」  
全て  
備前土 穴窯焼成です

お話を聞く事ができず、作者名と作品名しか紹介できない方が多くなりました。

『第39回 作品展』紹介③



カンナ掛け



それでも何回か挑戦するうちに、そこそこ飛びカンナ模様を形成することができました。カンナ技法の難しさとともにその醍醐味を味わった研修会でした。焼成は各自が行いますが、1月の作品展に展示できることを願っております。

鍋島弘義さん



「飛びカンナの皿」  
「大黒さん」  
「小地藏さん」  
「夫婦湯飲み」

・「飛びカンナの皿」は、粉引きの後に撥水剤を塗り飛びカンナの模様を呉須で着色。  
・「大黒さん」「小地藏さん」は、自分なりに可愛く作ってみました。  
(鍋島)

川島幸子さん



「大皿・飛びカンナ」美濃赤土・白化粧生  
「皿・飛びカンナ」信楽白・白化粧生  
「木の葉皿」信楽赤 天目・白萩・織部釉  
「ネックレス」信楽土 穴窯焼き締め等  
「花器」信楽白 穴窯焼き締め

○今年の一品 「木の葉皿」(川島)  
電気窯で焼成したのですが、全体に天目釉を掛け更に白萩と織部を半々に掛けました。もう少し、緑色が出れば良かったのですが黒が強くなってしまいました。「花器」や「ネックレス」は身延の穴窯で焼いたものです。

【備前のお皿と酒器たち】  
「鉢」「平皿」  
「徳利」火罨き  
「ぐい飲み」  
すべて、備前の土  
穴窯焼成です



大日方 毅さん



○今年の一品 「花器」 (須藤)

何かいい記念になる物を作りたいと思っていたら、ある雑誌に載っていた花器が「花が無くて飾りになる、いい形だな」と思い「この形はどう作れば出来るかな？」と、考えながら時間をかけて作り出しました。自分なりによかったですと思っています。



須藤芳弘さん

「花器」穴窯焼成 自然釉  
「マグカップ」「ぐい飲み」  
穴窯焼成 自然釉

「どんぶり」磁器土 透明釉薬  
 ①(呉須) ②(パッチワーク)  
 「どんぶり」赤土 弁柄 還元  
 ①透明釉薬 ②灰釉薬  
 「豆皿」①赤土 透明釉薬 弁柄  
 ②赤土 白釉薬 型押し



浜野 寿子さん



○今年の一品 「花器」  
 お花が無いとあまり目立たないけど、正月に床の間に花を生けて置いたら、みんなに「すごく素敵ね。」と言われました。  
 ロクロと手捻りの合作作品です。(徳植)



徳植 美和恵さん

「花器」信楽白 黒マットに白マット  
 「ピッチャー」信楽白土 白雪釉  
 「大皿」①信楽土 鳴海織部釉 ②飛びカンナ  
 「ドラ鉢」信楽白土 黒マットに白雪釉  
 「中鉢」①信楽白土 黒天目に青銅  
 ②ハートの部分ピーコックの彩磁に土灰織部  
 「おちょこ」練り込み



井上 明さん

【備前土 穴窯焼成】  
 ①自然釉大鉢 ②自然釉中皿3枚  
 ③自然釉葉形中鉢 ④自然釉花入  
 ⑤自然釉一輪挿し3個  
 【信楽土 穴窯焼成】  
 ⑥自然釉花入3個



鈴木 早苗さん

【透光磁練り込み】  
 (使用土)ニューボーン・無釉  
 「赤色分銅柄の深皿」  
 「オレンジと紫色の分銅柄深皿」  
 「ケーキ皿」「茶碗」  
 「白色分銅柄の茶碗」「箸置き」



下村 武子さん

①「三色掛分け井」  
 ②「井」(呉須線模様)  
 ③「井」(緑線模様)  
 ④織部函(型起こし)



○今年の一品 「花器(蹲る)」  
 伊賀の土に、残っていた松灰釉をたっぷりかけ、電気窯で還元をかけ焼きました。  
 流れた釉薬が止まってくれて穴窯風に焼成出来ました。(出淵)

出淵 僖江子さん



「花器」2点 伊賀土 松灰釉 還元焼成  
 「白いうつわ」3点  
 ①②越前白土 呉須模様 白マット釉  
 ③越前白土 弁柄模様 唐津釉  
 「黒いお皿」4点 ①黒泥土 油滴天目  
 ②黒泥土 白化粧土文 透明釉  
 ③「小皿」「箸置き」

○今年の一品 「黒楽茶碗」  
 この茶碗は 15 年位前、身延の穴窯で初めて焼いたもので、作品を整理していた時出てきた作品です。  
 みんなで面白半分には捨て間で焼いたもので、700℃に上がった状態で取り出したのですが、たまたま、一つだけ取れたもので、温度調整が難しいものだと、つくづく思いました。  
 いつもと同じで、御窯が何とかやってくれて、たまたま出来たと思っています。  
 (鈴木和子)



鈴木 和子さん



- 「長陶板」「片口」「焼締丸鉢」「香合」  
信楽土 自然釉
- 「長陶板」信楽土 織部釉
- 「ぐい呑」5点 信楽 自然釉・織部釉
- 「茶碗」信楽土 黒楽
- 「茶入」備前土 自然釉「向付」5点  
信楽 自然釉・白萩



広報部より

第40回作品展でも インタビューに基づき記事を掲載いたします。ご協力よろしくお願いたします。

○今年の一品 「大皿」  
 陶芸が大好きなのですが、なかなか腕が上がらず手捻りが多いのですが、久し振りに電動ロクロで大皿を作ってみました。  
 釉薬は、白萩釉に先生が作られた青緑窯変釉を縁に掛けました。  
 ちょっと、色々なものが盛れたらいいなと、思っています。(池見)



池見 千枝子さん



- ①「大皿」②「中皿」 信楽白土 白萩釉青緑窯変釉
- ③「変形花入」黒御影土 青銅釉
- 【信楽赤土】
- ④「手付鉢」黄土マット 織部釉 ⑤「角皿」黒天目釉
- ⑥「ぐい呑み」黒天目釉 黄土マット
- ⑦「かべ掛」乳緑釉 青銅釉 ⑧「花皿」
- ⑨「角小皿」 乳白釉 青銅釉

スプレー掛けて施釉するのは尺皿以上の大物に限っております。(掃除が面倒)



皿を挟んだ状態。手前は尺皿、奥は 8 寸皿です。  
 赤い玉に親指を掛けて持ち上げ、釉薬の中に浸すだけ。  
 とても楽です。

金属と木製の棚受け(木製は穴開け)、アクリル棒(先端をサンダーでとがらす)玄関マット(底板)を使用。  
 材料費は約 800 円(赤漆は別途)  
 支点が皿の中心になるので力が要らず、簡単に釉薬を掛けることが出来ます。

紹介してくれたのは 鈴木貴久さん です



尺皿まで対応の釉掛け道具を作りました。  
 (奥は市販品の皿用釉掛けはさみ)

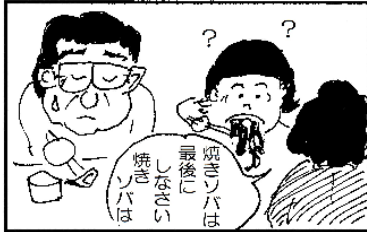
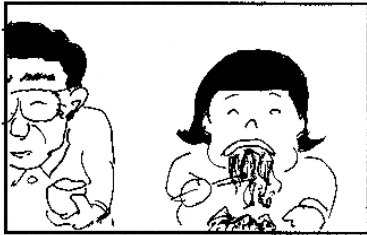
会員の方から教えていただいた「手作り道具」の紹介です

# 陶陶さん

年末作品展が近づいてきましたね

第 94 号

あかほし



ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会

検索

<http://www20.atpages.jp/tomonokai/>

横浜陶芸友の会だより  
第 172 号

(平成 30 年 11 月 1 日発行)  
発行人 横浜陶芸友の会

会場は 横浜山手 イタリア山庭園そば  
「アートギャラリー アスレ」です。  
お時間のある方は、お出かけください。

**M.O.S.T.<sup>2</sup>**  
穴窯焼成仲間の作品展

M. 本橋 昭彦 O. 逢坂 博樹 S. 鈴木 和子  
T. 田村 和正 T. 高橋 光男

～ アートギャラリー ATHLE ～  
(横浜市中区 山手イタリア山庭園 そば口)  
2018年11月26日(月)～12月2日(日)  
10:00～16:00  
※26日(初日)は12時にオープンします。

出品者 M. 本橋昭彦 O. 逢坂博樹 S. 鈴木和子  
T. 田村和正 T. 高橋光男

友の会会長 高橋光男さんをはじめとする会員の参加するグループ展が11月26日から12月2日まで行われます

ホームページでもお知らせしていますが  
会員の活動の様子を報告いたします

何年前か前、あるアイデアマンのもので、ちよつと深めの内側釉掛けに便利さがあります。噴水形式ですのでバケツの内側で作業出来て重宝しています。灯油ポンプの一番安いもので作っています。

### 内側釉掛け用ポンプ



「手作り道具」紹介してくれたのは赤星公人志さんです

皆様に紹介したい「手作り道具」がありましたら、是非、ご一報ください  
お待ちしております (会報担当)

・「第40回作品展」では出展された皆様の「この一品」への想いを、写真でもわかりやすく、また、お話を伺い、会報で紹介していきたいと思ひます。  
会期中にお会いできず、お話が聞けない方も出るかと思ひますが、ご協力ください。  
・友の会HPの「会員ページ」には皆様の力作が見やすく掲載されています。  
時には開いてみてください。 (鍋島弘義)

【編集後記】  
・東京国立博物館で開かれていた「縄文」を見に行ってきました。  
皆さんはいらつしやいましたか？  
最終日前日の土曜日ということもあり、館内は大勢の観客で溢れ返っていましたが、展示は系統だてて陳列されており、とても良い展覧会でした。なかでも火焰型土器や土偶「縄文のビーナス」などの国宝6点は圧巻でした。  
(大日方)